3年　日能研 全国テスト　-総合-

アンサーガイド

このテストは、テストを受けたあなたが「わかりやすく伝えるとはどういうことなんだろう？」ということを、考えるきっかけになってくれることを願って作りました。
テストの前半では、問題に取り組みながら、「いろいろな伝え方がある」ということを学びました。また、「伝えたことが、伝えられた人にどのように受け取られるのか」を考える問題にも取り組みました。前半の問題に取り組むことによって、あなたが今までに使ってきた「伝えるための方法」が整理され、それらの良いところ、足りないところを明らかにしていきました。
そして、テストの後半の ◆課題 では、前半で学んだことを使って、町で行われる「運動会のポスター」の良いところをさがしたり、さらに良くするための方法を考えたりしました。
このテストに取り組み始めてから、テストの時間が終わるまでに、あなたがどのようなことを考えたり、どのようなことに気づいたりしたのかを、思い出してみましょう。そして、そこで考えたり、気づいたりしたことを、これからあなたが生活していく中で、どんなときに役に立てることができるのかを考えてみましょう。

1　1日の中で、時こくが「6時」になるときは2回やってきますね。どちらの時こくのことなのかが伝わるようにするために、人々はどのような伝え方をしているのでしょうか。
「午前・午後を使う」「24時制を使う」「『朝の』や『夕方の』をつけて伝える」「どちらの時こくなのかは明らかなので、特にちがいがわかるような伝え方はしない」など、いろいろな伝え方がありそうです。
この問題に取り組んだことをきっかけにして、あなたの身の回りで「時こくを伝えている場面」をさがし、どのような伝え方をしているのかを調べてみましょう。

(1)　ウ　「夕方」とあるので、午後4時30分のこととわかります。
エ　「午前11時10分前」とは、「午前11時ちょうどから10分前の時こく」のことです。ですから、午前10時50分を表しています。
ア～エの4つの時こくを、1日の中で早くやってくる方から順にならべると、
「エ　午前11時10分前(午前10時50分)」→「イ　正午(お昼の12時)」→「ア　午後3時」→「ウ　夕方の4時30分(午後4時30分)」となります。

(2)　時こくを24時制で表すと、「午前8時52分」は「8時52分」、「午後9時19分」は「21時19分」です。
ひき算をするときは、右のようにくり下がりのしくみを使って計算をすることができます。(1時間を60分におきかえて、くり下げています。)

	20	79
	21時	19分
−	8時	52分
	12時間	27分

21時19分－8時52分
＝20時79分－8時52分……19分＋60分＝79分です。
＝12時間27分

(無断転載・複製を禁ず)

(3) ア 「小学校から帰って」とあるので、夕方の6時のことと考えられます。

イ 「あたりがだいぶ暗くなってきた」とあります。「暗くなってきた」は「明るかったのにだんだん暗くなってきた」ということなので、夕方のできごとわかります。

ウ 「6時なので」と書かれているので、この「6時」は、商店街にある店が開いていなくて当然といえる方の6時です。

午前6時(朝の6時)は、町の人々の多くが起きて活動を始めるころの時こくなので、午前6時に商店街にある店がまだ開いていないというのは、おかしいことではありません。ですから、午前6時のことと考えられます。

(さんこう) ウの文が、もし、「6時なのに、駅前の商店街にある店はまだどこも開いていない。」となっていれば、この「6時」は、午後6時のことと考えられます。「で」と「に」の、たったひらがな1文字のちがいでも、意味が大きく変わってくることがわかりますね。

エ 「教室の電気はまだついていた」ということは、「教室の中にまだ人がいた」ということを伝えたかったのでしょう。つまり、「本当ならばもう帰っているはずの時こくだった」と読み取れるので、夕方のできごとわかります。

ですから、ア～エの中から1つだけ「午前6時」のことをいっている文を選ぶとすると、ウとなります。

---

2 言葉で何かを伝えるときに、同じことを伝えるはずなのに、伝える場面によって使う言葉がちがってくることがあります。(1)では、一輪車を、ちがう言葉で言い表すときの言葉をさがしました。(2)では、同じハンバーグであっても、聞かれたことによって、使う言葉を変えて伝えていました。また、(3)では、伝える相手のことを考えて言葉の使い方を変えました。

私たちが何かを伝えるときは、伝える相手のことを考えて伝え方を選んでいます。この問題を通して、「言葉を変えて伝える」という方法についても目を向けていきましょう。

(1) 写真に写っているものは一輪車ですね。ですから、答える言葉の1つに「一輪車」があります。一輪車を、ほかの言葉で表すために、①一輪車が何の仲間なのか、②一輪車はどんなときに使われるのか、を考えてみましょう。

① 一輪車は何の仲間か

・一輪車は乗り物の仲間です。ですから、「乗り物」と答えることができます。

・一輪車には車輪がついています。ですから、「車」と答えることができます。

② 一輪車はどんなときに使われるか

・一輪車を使って遊ぶときがあります。ですから、「遊ぶときの道具」「遊具」などと答えることができます。

・体育の時間に、一輪車に乗る練習をすることがあるそうです。ですから、「体育の道具」などと答えることができます。

・サーカスで、ピエロが一輪車に乗っているのを見たことがあるでしょう。ですから、「サーカスの道具」などと答えることができます。

ここに書かれた言葉のほかにも、一輪車について、あなたが知っていることを思いうかべてみましょう。すると、いろいろな言葉を見つけることができるかもしれません。

(2) 問題には、「①〜③のそれぞれには、後のア〜ウのどれかが1つずつ入ります。」とあります。ですから、全体を見て①〜③に入るものを考えましょう。

・①には、ア、イ、ウのどれを入れることもできそうです。

・②は、ハンバーグの材料を聞かれているので、イの「牛肉だよ」しか考えられません。

・③は、ハンバーグの種類を聞かれているので、アの「てりやきハンバーグだよ」が合いそうです。イの「牛肉だよ」も考えられますが、②にイが入るので、アと決まります。

ですから、①にはウ、②にはイ、③にはアが入ります。

(3) 「まもなく」は、幼稚園に通う子にはむずかしい言葉かもしれません。「もうすぐ」や「あとちょっとで」と言ってあげると、小さい子にも伝わりそうです。

「まいります」は、話し手がへりくだって使う言葉です。この言葉もむずかしいので、「来る」という言葉を使うと伝わるでしょう。

ほかにも、「危険」は「あぶない」に、「線の内側に下がって」は「線の中まで入って」、「お待ちください」は「待っていてね」のように言いかえてあげると、幼稚園に通う子にも伝わるでしょう。

ここまでのことから、次のような文が考えられます。

例1　もうすぐ電車が来るんだって。あぶないから黄色い線の中に入って待とうね。

例2　あとちょっとで電車がくるよ。電車が来たらあぶないよ。黄色い線の中に入って待っててね。

---

3 図で表すことと、言葉で表すことは、どちらも伝えるための方法となります。このとき、伝える場面によっては、図で表した方が伝わりやすいこともあれば、言葉で表した方が伝わりやすいこともあります。この問題に取り組んだことをきっかけに、ものごとを伝える方法としての図や言葉の特ちょうに目を向けてみましょう。

(1)① 絵を見ると、たとえば、次のようなことが読み取れます。

・前を走っているのはねずみで、後ろを走っているのは白いねこだ。

・ねずみとねこの間は、あまりはなれていない。

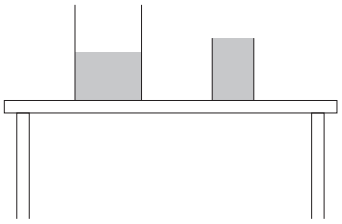
・ねずみの表情は、あせっているように見える。今、大変なときをむかえているようだ。

これらのことから、たとえば、「ねこがねずみをおいかけている。」「ねずみが白いねこにつかまえられそうだ。」などと書き表すことができます。

② 問題に書かれていることを図だけで伝えるには、少なくとも「机」、「大小2つのコップ」、「水が入っているようす」がわかるようにすることが必要です。

水が入っているようすは、水が入っている部分をうすくぬると、多くの人が「水が入っている」と読み取ってくれるでしょう。

これらのことから、問題文に書かれていることは、たとえば右の図のようにかき表すことができます。

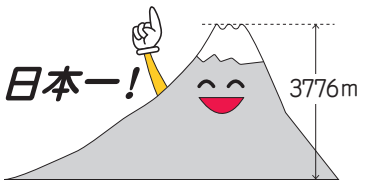


これでも、「コップが置かれているものが机なのかどうか」や「コップの中にあるものが水なのかどうか」などは、十分表しきれているとはいえません。このことからもわかるように、伝えたいことを図だけで伝えるのは、とてもむずかしいことといえます。

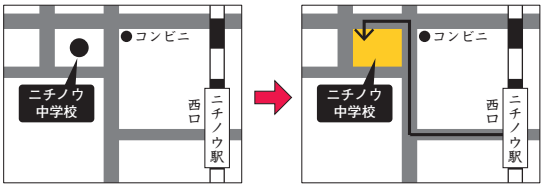
③　図と言葉の両方が使えると、伝え方に広がりが出てきます。

問題に書かれている文は、この文のままでも十分伝わる文です。そこに図をくわえることによって、さらにわかりやすく、印象にのこりやすい伝え方にすることができます。

たとえば、右のようにかき表すことができます。



(2)　まなぶさんは、次のように地図をかきかえました。



①　駅から中学校に入るまでの道を、矢印の線でかきくわえた。

②　中学校がある場所の「●」を「かげ」にかきかえた。

①によって、どの道を歩けばよいのかがわかりやすくなりました。それに、矢印の先を見れば、「どこから中学校に入ることができるのか」がわかります。中学校のしき地(校舎やグラウンドなど、中学校の土地すべて)は広いので、入り口の場所がわからないと、遠回りをしてしまうおそれがあります。まなぶさんは、この地図を使う人が遠回りをしないように、矢印をかきくわえて、入り口の場所を伝えようとしたのでしょう。

②によって、中学校のしき地がどこまでなのかがわかりやすくなりました。これは、駅から中学校までの道を伝えるだけでなく、中学校の広さも思いうかべられるようにした工夫といえます。

◆課題　ポスターは、文字や絵、図などの、「目で見えることがら」だけで伝えたいことを伝えるための道具です。文字や絵、図で伝えることについては、このテストの前半でいろいろなことを学びましたね。ここで学んだことを、この◆課題ではどのように使うことができたでしょうか。テストのときに考えたことを思い出してみましょう。

●ポスターから読み取れる、わかりやすく人に伝えるための工夫

たとえば、次のようなことを見つけることができます。

・タイトルを太くて大きい字で書いている。

このことによって、「運動会をしますよ」という、一番伝えたいことが真っ先に見る人の目に飛

びこんできます。

・地図をのせている。

このことによって、どこで運動会が行われるのかが一目でわかるようになります。さらに、地図をグラウンドだけでなく、その周辺まで広めにのせているので、グラウンドまで行くときに、目印となる場所を見つけやすくなります。

●ポスターをさらに良くするために直せること

たとえば、次のように直すと、ポスターをさらに良くすることができます。

・曜日を入れる。

運動会に参加できるかどうかは、日づけだけでなく、曜日がわかると、より考えやすくなります。

・終了時こくを入れる。

何時まであるのかがわかると、ポスターを見た人が、そのあとの予定を立てやすくなります。

・くわしいことをどのように知ることができるのかを書いておく。

ポスターでは、運動会についてのくわしいことをすべて書くことはできません。「ホームページのアドレス」や「担当者の連絡先」、「くわしいプログラムが置いてある場所」など、くわしいことを知るための方法を書いておくと、ポスターを見る人にとって、さらに親切なポスターとなります。